

## 荒牧 俊一 議員



### 有害獣及びジャンボタニシ対策について

**Q** 今も相変わらずイノシシによる農作物への被害は

耳にするが、最近では電気牧柵による対策や猟友会による駆除で以前のような被害は出ていないと思っている。しかし、サルは以前に比べ増えているのではと思うが、サルに対しての駆除は、年間何匹ぐらい実績があるのか、他に何か有効な方法は考えられないか伺いたい。

また、最近ジャンボタニシの被害が目立ってきている。随分前に下田地区では非常に増えているというところで役場にも相談があったが、有効な手立てが無いまま現在に至っている。そし

て今では下流域の竹田地区の水田まで広がってきた。各農家が駆除に取り組んできたが、いろんな農薬を使用しなければならず、減肥減農薬で取り組んでいける南阿蘇米のブランド化にも悪影響を及ぼすと思われる。村として何か対策を講じていただけないか伺いたい。

**A** 産業振興課長

サルについては、県の許可になっており久石の4群には全頭捕獲の許可が出ているが、なかなか前に進まない状況にある。捕獲頭数は平成17年度15頭、18年度16頭、19年度2頭、今年2頭捕獲しているが、なかなか全頭捕獲にはなっていない。

それから、ジャンボタニシについては、深水で成長しやすいという点なので、田植え後浅水対策でやっていただきたいと思うが、冬場に石灰窒素を散布し、ホ場を耕起するなどの対策を指導していきたい。また、農地・水・環境対策事業の中に、ジャンボタニシ駆除の活動ということも示してあるので、農家の皆さん方には周知を図っていききたいと思っている。

### 耐震診断の結果と中学校整備の進め方について

**Q** 診断の結果、久木野中と長陽中の校舎は早急に強化が必要となっているが、この際、長陽中学校を大規模改修し統合中学校としてはどうか。

**A** 村長

中学校の統合についても時間的な余裕はないと考えている。「学校規模審議会」でも検討していただくが、この中学校で部活動ができなくて他町村の学校に行くということになると適切ではないと思っている。長陽中学校をと具体的な事も言われたが、審議会では1校という事になれば、久木野、白水地区の方に理解を求めていくようにしなければならぬ。

**A** 教育長

本年の久木野中学校の入学学生を見た時に啞然とした。11人の入学学生で計58人の中学校という現実、一番多感な時期、生涯を通じての友達を作る中学校時代に、これだけの人間で本当にそれだけの思い出と実績を残すことが出来るのか、又、自分の求めるクラブがないという事

で、白水中学校へ3人の子供が行った。村内の異動なので、子供達の選択を重視した。耐震診断の結果すべてを補修すれば莫大な費用がかかる。統合を視野にいれた時無駄は省きたい。年次を切っても整備計画を立て、予算化の方向へ転換しなければならぬ時期にきていると思う。村長も機会があれば審議会で見解を述べたいという事なので、するとなれば整備計画を急がなくてはならない。

